

# バイオガス発電における現状と要望

平成29年10月18日



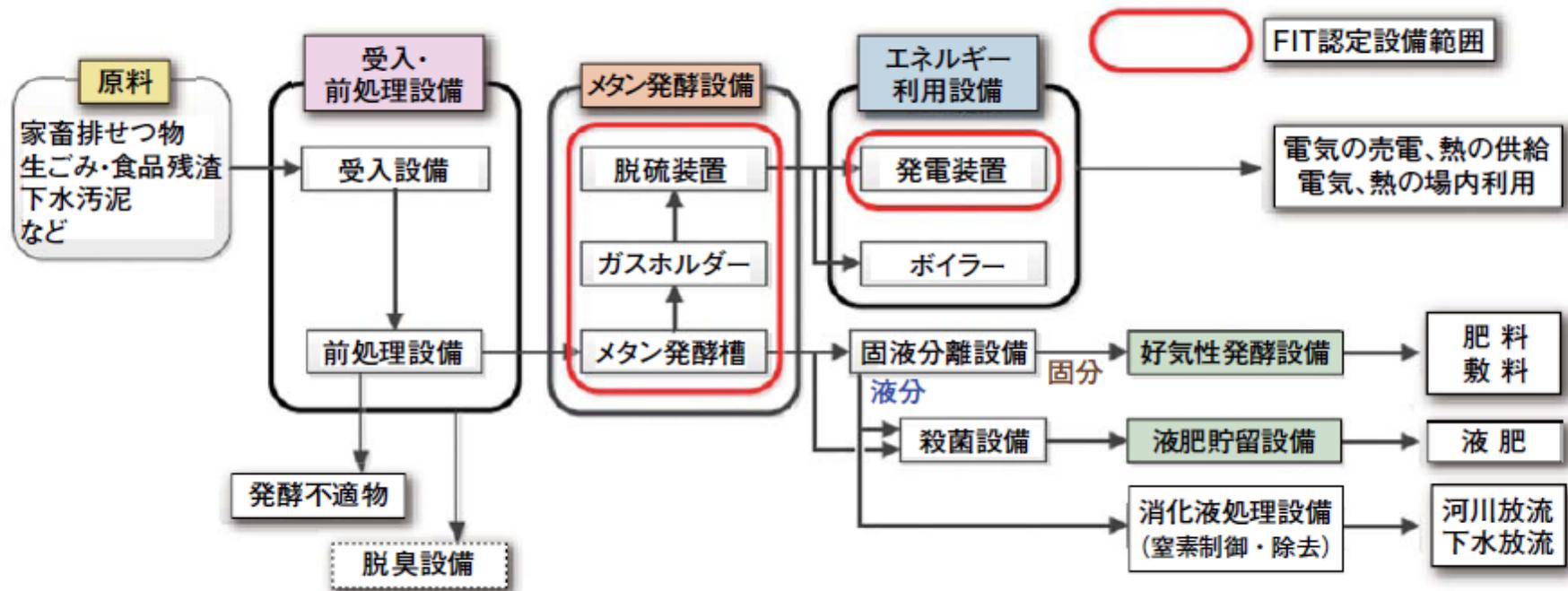
バイオガス事業推進協議会

# バイオガス発電設備の導入及び認定の状況 (平成29年3月末現在)

- 「長期エネルギー需給見通し」(エネルギーミックス)におけるバイオガス発電の2030年度における導入見込み量は160MW。
- バイオガス発電のFIT制度活用による導入件数は121件、導入出力は約38MWであり、エネルギーミックス導入見込み量の約24%という状況(FIT制度を未活用施設の出力を含めても約43MW(エネルギーミックス導入見込み量の約27%))。
- FIT認定については、認定件数は257件、認定出力は約103MWであり、エネルギーミックス導入見込み量の約64%という状況。
- 上記より、エネルギーミックス達成のためには、更なる導入の推進が必要である。

# 固定価格買取制度におけるバイオガスプラントの認定設備範囲と特殊性

バイオガスプラントの買取制度における認定設備範囲は、メタン発酵、ガスホルダー、発電の各装置となっている。



# バイオガス発電プラントの特殊性と状況

- バイオガス発電プラント建設には、計画から地元合意、各種許認可、建設工事、完成までのリードタイムが長い。
  - バイオガス発電プラントは、メタン発酵設備以外に、前段の発酵不適物を分別する前処理設備、メタン発酵後の消化液の液肥利用設備、消化液排水処理設備、脱臭設備等多岐に亘る。
  - 系統接続では、逆潮流対策等、当初想定していなかった追加的費用を求められる事例が急増している。
  - バイオガス施設の大きな課題であるメタン発酵を行った後の消化液処理についても、牛糞尿以外のバイオマスについても新たに液肥利用の取組が始められている。
- ⇒ 以上より、事業化に当たっては、FIT対象設備のみでなく、事業全体の費用対効果を考慮する必要がある。

# バイオガス発電に係る要望

- ① バイオガス発電はベースロード電源となる安定的な発電方法であり、有機性廃棄物の適正処理やコストの低減に資するとともに、高い温室効果ガス削減効果を有する等の長所を有しており、自立分散型電源の構築、循環型社会の形成、及び地域振興に資する取組として、全国各地で注目が集まってきている。

しかしながら、前述のとおり、エネルギーミックスに対する導入状況や設備導入コスト、消化液の有効利用等の課題が山積している状況にあることから、これら課題の解決のため、当面の間は買取価格の維持をお願いしたい。

- ② 併せて、系統連系費用の増大という再生可能エネルギー全体の課題があり、この問題については適切な早期解決をお願いしたい。